



新板
 本朝之筆傳授鑑

圖書
 印

遠13
 1605



白鳥

1605
1

伊大黒
舟庄兵衛



東西く大序

中よまた。此本朝三筆傳授證の
 け夜拙まひ付で。も習證に當り洋るの
 五紐まで。字乃方。は強名。はひは觸る
 此眼よとまの。ゆへに。と。か。入。は
 此七。は。先。出。向。奉
 給。矢。趣。向。少。一。ま。の。も。多。れ。も。先。の
 證。の。い。辰。の。彩。の。の。で。は。ま。の。は。ま。と。は。ま。の。ま。ま。の。



出典は古く家振り子孫の歴史を記し
とて又湯か足合の品ひ村事にて家再り
趣致増大席の初りてはよりまはれ
さではざしはよりをいちてはより
は熱液は復た能ひちちとハナシ
まで灰吹のニチク 松子木松の
様交サアク

狂言作者

其鳳

本朝三筆侍授鑑目錄

卷之一 奪れこと公中は秘密の巻

才一 雜題は詩歌とい言葉は月記

孤と音あけは存心は三筆の本
頼母又又七又七字は首尾をなく
名実備き世のたははの神

才二

家筋ハ男ハ構持換ノ巻きの

難ハれ海ハ底と見接スのやんざん
馬れんとんがゆきまを踏の仕者
双方すしあらの習はな花舞撰

才三

秘密ノ一ノ巻ノ三ヶの大事

室ノ花のお遊びとてあるも曲者
姫と奪はれとて女宮で女教人仲る
ゆうくと一ノ巻の習はな花舞撰

難ハれ海ハ底と見接スのやんざん

世ハ重今人知れあはし不女女事はあやうかゆいとも流る
いもうち相でた信ハ月たも信ハ月たも信ハ月たも信ハ月たも
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
かこらぬあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
お茶をたてあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
学支能きあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
いそよそあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
屋敷にあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is dense and fills most of the page.

秘傳ノ書ニテ大丈也

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and fills most of the page.

さいふのりあふむかす事なれどよくきつひりあはけりぬらふ
 てる事ぬの教十の事をつつたてりてあはれなき事なれど人ほしくぬ
 ありぬらふ切まらざる事くありぬらふ事なき事なれど人ほしくぬ
 さいふのりあふむかす事なれどよくきつひりあはけりぬらふ
 めいづつがえのりあふむかす事なれどよくきつひりあはけりぬらふ
 どわく事なれどよくきつひりあはけりぬらふ
 然しててもいふ事なれどよくきつひりあはけりぬらふ
 事なれどよくきつひりあはけりぬらふ
 此方とていふ事なれどよくきつひりあはけりぬらふ
 法をいふ事なれどよくきつひりあはけりぬらふ
 と云ふ事なれどよくきつひりあはけりぬらふ

一と巻終

抄のりよ

一永曆大雜書天文大成

上天文より中人の事下地理に及んでり
 若函善悪毎日れり一方角曆上未終
 事をもと香くの事ほ其外一代八卦即夜の占
 三世相の秘傳男女相性人家日用に及ん
 りてはる事とありぬらふ事なき事なれど人ほしくぬ
 雜書といふ事なれどよくきつひりあはけりぬらふ
 大成といふ事なれどよくきつひりあはけりぬらふ

